

令和5年度

「運営に関する計画」（案）

最終評価

大阪市立長橋小学校

2024（令和6）年3月

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

本校は、これまで保護者や地域の理解と協力を得ながら、ともに歩む歴史の中で、人権尊重の教育を中心に据え教育活動を進めてきている。一人ひとりの子どもに寄り添い、子どもたちの実態に向き合い取組みを構築してきた。また本校は、外国につながりのある子どもも多く在籍する。その子どもたちが自分に自信をもち、自身のつながりに誇りをもつことをめざし、多文化共生教育にも注力してきた。「自ら学び考える子」「強くたくましい子」「仲間を大切にする子」をめざす子ども像とし、人権を尊重した教育を基盤として、学力向上と集団育成を推進し、一人ひとりの子どもを大切にした教育を推進してきている。

その積み重ねの中で、本校の子どもたちは、自ら進んであいさつをしたり、主体的に清掃活動を行ったりと、自主性・主体性を示す子どもたちが増えてきている。学習に対する落ち着きも見られ、前向きに取り組む姿勢もうかがえる。校内調査の学習アンケートでは「学習内容が分かった」と肯定的に回答する子どもたちが近年増えてきており、大阪市学力経年調査児童質問紙においても、各教科の「学習が好き」と肯定的に回答する児童は、概ね大阪市平均を上回っている。学習への意欲の高まりが感じられるものとなっており、これまでの取り組みの大きな成果と言える。一方で、学習内容の定着という側面においては課題を残す。学力経年調査の結果も厳しいものがあり、本校の子どもたちの学力の定着については、これまで続いている課題と言える。

本校には、家庭環境に課題を抱え、基本的な生活習慣が身についておらず、生活面からの支援を要する家庭が散見される。遅刻・欠席数は相当数にのぼり、教員が協力しながら子どもたちの生活面に関わりつつ登校支援や学習支援を行っている。昨年度、一昨年度はコロナ不安の影響で欠席する子どもも多く、双方向通信を活用したオンライン授業の実施やプリント学習の取組などの支援、個別支援を進めてきた。しかしながら、遅刻や欠席の多い子どもや生活面で配慮を要する子どもには、基礎的な内容の定着が不十分となり、学習や学校生活への意欲が低下してしまう姿も見られている。基本的な生活習慣の確立に向け、「早寝、早起き、朝ご飯」などの啓発週間で子ども、保護者へ働きかけたり、日常より保護者の協力を求めたりしているが、今後も継続して取り組むべき課題となっている。

また、本校の子どもたちは、学習や運動への意欲、相手意識などは高いものの、自身への思い、自己肯定感が低い傾向にある。校内調査の生活アンケートでは「自分にはよいところがある」と肯定的に回答する子どもは、他の項目ほど高くはない。大阪市学力経年調査児童質問紙においても、「自分にはよいところがある」の項目で、近年、大阪市平均を 10 ポイント程度下回る結果も見られる。生活環境の厳しさとともに、幼少期の体験なども要因と考えるが、自分が認められる、必要とされる経験の少なさ、褒められる経験の少なさが影響しているものと考えられる。

【児童質問紙「○○の勉強は好きですか」への肯定的な回答の数値】

年度	国語		社会		算数		理科		外国語		平均値	
	本校	大阪市										
2020	75.4	65.7	67.8	61.2	81.2	69.9	80.6	78.9	70.5	71.9	76.0	69.5
2021	74.2	66.6	69.8	62.8	77.1	69.2	79.4	80.0	79.3	74.7	76.0	70.7
2022	66.1	67.2	60.6	62.1	72.1	67.6	72.9	79.4	78.7	75.1	70.1	70.3

【各学年の標準化得点推移】

年度	小3	小4	小5	小6
2020	89.8	87.9	90.9	90.7
2021	90.5	89.7	90.0	93.5
2022	91.8	91.9	88.4	89.2

【児童質問紙「自分にはよいところがあると思いますか」への肯定的な回答の数値】

年度	本校	大阪市
2019	57.7	72.4
2020	73.9	70.1
2021	60.1	73.9
2022	68.4	76.4

本校の子どもたちは明るく元気な子が多く、異学年交流における相手を思いやる優しさや態度など、誇らしい姿も多く見受けられる。その子どもたちの姿こそが本校の取組の成果である。その成果を維持しつつ、子どもたちが自分たちの夢を実現できる力を、自分の思いや考えを実現できる力を養っていく必要がある。現状の課題である自己肯定感の醸成と学力の定着・向上をめざし、自己実現できる力を育成していくものとする。

自己肯定感の醸成を進めるうえでは、子どもたちにできることを増やすとともに、できたことへの称賛、認め励ます姿勢を大切にしていきたい。

学力の定着・向上を進めるうえでは、日々の学習活動の中で、主体的・対話的で深い学びの実現をめざし互いに学び合う学級集団を育むことが大切になる。また、本校が取り組んできた読書活動の充実は、継続して行っていく。語彙力を高め、基礎学力の向上につなげていきたい。大阪市が力点を置くICT教育においても、今後さらなる充実が求められている。例えば、実験・観察の記録、積極的に活用するなど、学習意欲の喚起を促すことも含めて、本校でも取り組んでいく必要がある。

これまで進めてきた中で成果を上げてきた「一人ひとりを大切にした教育」を今後も継続し、本校教育活動の深化充実に努めるとともに、次代を担う子どもたちの生きる力を育むため、保護者、地域とのつながりを大切にしながら、教職員一丸となって取り組んでいく。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を、90%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査における「自分にはよいところがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査の「いろいろな国や地域の文化や伝統などにふれる機会が多くあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、90%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の校内調査における「授業の内容がわかりますか」の項目について、肯定的に回答する割合を85%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の標準化得点を、いずれの学年も95ポイント以上にする。
- ・令和7年度の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、肯定的に回答する割合を90%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度の校内調査における「日々の活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を100%にする。
- ・令和7年度のゆとりの日について、週1回以上設定する。
- ・令和7年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、85%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を90%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

#### 学校園の年度目標

- ・校内調査における「自分にはよいところがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にするとともに、「自分にはよいところがない」と回答する児童の割合を15%以下にする。
- ・校内調査における「将来の夢や目標がありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・年度末の校内調査の「いろいろな国や地域の文化や伝統などにふれる機会が多くあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を40%以上にする。

#### 学校園の年度目標

- ・小学校学力経年調査における各教科の準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において「反復横跳び」の平均記録を、前年度より向上させる。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ・校内調査における「ICT（プログラミング等）の使用により授業が分かる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・ノーアクセスデイを月2日以上設定する。

### **学校園の年度目標**

- ・学校閉校日については、夏季休業期間中は4日以上、夏季休業期間以外の休業期間については1日以上設定する。
- ・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、70%以上にする。
- ・校内調査における「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を85%以上にする。

### **3 本年度の自己評価結果の総括**

(様式2)

## 大阪市立長橋小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通目標(小・学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 <b>最も肯定的 95%</b></li> <li>・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 <b>2022年度 7/177 3.9% 2023年度 7/172 4% 前年度比 0.1%増</b></li> <li>・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <b>2022年度 1/3 改善 33.3% 2023年度 2/7 改善 28.5%</b></li> </ul> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内調査における「自分にはよいところがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にするとともに、「自分にはよいところがない」と回答する児童の割合を15%以下にする。 <b>肯定的 87% 最も否定的 7%</b></li> <li>・校内調査における「将来の夢や目標がありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 <b>肯定的 87%</b></li> <li>・年度末の校内調査の「いろいろな国や地域の文化や伝統などにふれる機会が多くある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。 <b>肯定的 96%</b></li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向1、安全、安心な教育環境の実現】</b></p> <p>定例ケース会議（スクリーニング会議）など、各種部会において児童の様子の交流を日常的に行う。いじめアンケートを通していじめの早期発見に努め、掌握したいじめについては、学校で組織的に対応し、原因を明らかにするとともに、いじめ解決を図ることができるようとする。</p>	
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定例ケース会議（スクリーニング会議）など児童理解の会議を月1回実施する。 <b>定例ケース 毎月実施 年間 11回 インクル部会・在朝部会での児童理解</b></li> <li>・いじめアンケートを学期に1回実施する。 <b>定例ケース集約会 学期 1回 等</b></li> <li>・校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」の最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 <b>最も肯定的 95%</b></li> </ul>	<b>A</b>

## 取組内容②【基本的な方向 1、安全、安心な教育環境の実現】

登校しづらい児童に対して、家庭訪問を行い登校の支援をする。また、児童の実態に応じてオンラインを活用するなど柔軟に対応し、学習への参加を促す。児童や保護者に必要な支援を掌握するため、区役所や関係諸機関などと連携を図り、不登校児童の在籍割合を減少させる。

### 指標

- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

2022 年度 7/177 3.9% 2023 年度 7/172 4% 前年度比 0.1%増

- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

2022 年度 1/3 改善 33.3% 2023 年度 2/7 改善 28.5%

C

## 取組内容③【基本的な方向 1、安全、安心な教育環境の実現】

命の教育として防災・減災教育に取り組む。地震、火災などの自然災害を想定した避難訓練を実施し、命を守る行動をとることができるようとする。また、地域や区役所と連携することを通して、学校や地域に目を向け、自分たちの町や人のために行動できる心を養い、協力することの大切さに気づくことができるようとする。

### 指標

- ・活動の様子を伝える『防災新聞』を年 3 回以上発行する。

防災新聞 7 号作成

A

- ・校内調査の「あなたは命を守る行動をとることができますか」の肯定的な回答の割合を 85% 以上にする。

肯定的 99.3%

- ・校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の肯定的に答える児童の割合を 80% 以上にする。

肯定的 97%

## 取組内容④【基本的な方向 2、豊かな心の育成】

生活目標、長小 3 つのパワーなどを児童に提示し指導を進めることで、児童自らが行動をよりよいものにしようとする意欲を高める。教職員が児童の認められる場面や児童が互いに認め合える場面を効果的に取り入れ、自分のよさや可能性を感じられるようとする。

### 指標

- ・生活目標の周知・掲示を月 1 回行う。 每月全校朝会で周知 校内掲示

- ・教職員人権教育研修会や学習会等を年 10 回以上実施する。

西成教育サポート部落人権問題学習会 12 回実施・市人教大会

3 区合同研修会・夏期研究会

B

- ・校内調査の「学校の決まりを守っていますか」で肯定的な回答をする児童の割合を 80% 以上にする。 肯定的 84%

- ・校内調査の「自分にはよいところがありますか」の肯定的に回答する児童の割合を 75% 以上にするとともに、「自分にはよいところがない」と回答する児童の割合を 15% 以下にする。 肯定的 87% 最も否定的 7%

### 取組内容⑤【基本的な方向2、豊かな心の育成】

韓国・朝鮮につながりをもつ児童をはじめ、フィリピン、中国などの国や地域につながりのある児童が在籍している。遊びや歴史にふれる機会を通して、それぞれの国や民族の文化を理解し、民族のアイデンティティーを育てるとともに、国際社会を生きる素地となる力を育てる。

#### 指標

- ・発表会、報告会を実施する。 実施済
- ・学習や活動の様子を伝える新聞などの学期に1回以上発行する。

民族だより 8号発行（2月現在）

- ・校内調査「いろいろな国や地域の文化や伝統などにふれる機会が多くあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。

肯定的 96%

A

#### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① いじめについて事例を取り上げて話をした学年もあった。いじめに対する校内調査の結果では、最も肯定的な回答をする児童が95%で目標を上回っていた。否定的な回答はなく、肯定的な回答が100%だったことから、いじめをゆるさないという学校の目標が達成できたといえる。
- ② 昨年度の不登校児童は7名で、今年度も7名で同数であるが、在籍比率は昨年度よりも増加している。また、昨年度から今年度にかけての改善の割合を比較すると、今年度の改善の割合は減少した。さらに、長欠児童が昨年度より増加している。
- ③ ちびっこ防災プロジェクトでは、毎月防災・減災教育に取り組むことができ、防災意識を高めることができた。そこでの高学年では、学級で防災について話すこともあり、意識の向上につながった。
- ④ 校内調査「学校のきまりをまもっていますか」の肯定的な回答は目標を上回っている。しかし肯定的な回答は多いが、学校生活のなかで学校のきまりを守っていない児童もいる。
- ⑤ 民族学級・フィリピン学級・多文化共生学級があり、いろいろな国や地域の文化にふれる機会が多くある。発表会や報告会を通して、民族学級・フィリピン学級・多文化共生学級の仲間の取組を知ることができている。

全体を通して、目標に対する指標や取組が年間を通して計画されているので、ほぼ達成できることにつながったと考えられる。継続して取組を進めていく。

#### 次年度への改善点

- ② 不登校児童への対策だけでなく、不登校にならないように遅刻や欠席者を減らす対策を学校全体で取り組む策を講じる必要がある。また、関連機関との連携をより一層していく必要がある。
- ③ 取組について新転任の教職員にわかる研修会を実施したほうがよい。
- ④ きまりを整理して全学年共通意識をもってできるようにする。目標の数値は達成できているが、現状では守っていない姿もある。特にスマートフォンの扱いのルールについては守っていない児童が多いため、ルールが守れるように学校全体として取り組む必要がある。

## (様式2)

## 大阪市立長橋小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった		年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】			
全市共通目標(小学校)			
・小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。	経年調査 34.2%		
・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。			
6年：国語 R4 0.73 R5 0.57 算数 R4 0.62 R5 0.63			
5年：国語 R4 0.71 R5 0.80 算数 R4 0.82 R5 0.78			
4年：国語 R4 0.70 R5 0.71 算数 R4 0.91 R5 0.77			
3年：国語 R5 R5 0.70 算数 R5 0.78			
・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。	経年調査 64.0%	C	
・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。	経年調査 73.6%		
・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を40%以上にする。	経年調査 75.8%		
学校の年度目標			
・小学校学力経年調査における各教科の標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。			
・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において「反復横跳び」の平均記録を、前年度より向上させる。			
昨年度 男子 35.6 女子 34.9			
今年度 男子 37.8 女子 40.1			
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況	
取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 授業の中で、学級の友だちと話し合う活動を取り入れ、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりする時間を持つ。話し合いを通じて自分の考えを深めたり広げたりしたことをノートにまとめ、自分の成長を実感できるようにする。		A	

<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級の友だちと話し合う活動を、毎日1回以上取り入れる。 ⇒ ○</li> <li>・校内調査「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目で、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">1月生活アンケート 48%</p>	
<p><b>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>各学年の学年児童全体の学習の実態を把握し、基礎・基本的な学習の定着を図る。TT体制を活かして、習熟度別少人数授業を取り入れるなどして、児童一人ひとりに応じた指導や支援、補充学習を実践する。</p>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数チャレンジやMIM、コグトレなど基礎・基本を伸ばす学習を定期的に行う。</li> </ul> <p style="text-align: right;">わくわくタイム実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、前年度より向上させる。</li> </ul>	
<p><b>取組内容③【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>児童の自然の事象・現象についての理解の向上を進める。児童が理科の見方・考え方を働かせ、主体的・協働的な学習ができるように、ICTを活用した実験・観察に取り組ませるようにする。</p>	C
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・観察の記録にICT機器を活用した活動を学期に1回以上行う。 ⇒○</li> <li>・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">経年調査 64.0%</p>	
<p><b>取組内容④【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>低学年からの英語教育を推進し、児童の英語力を向上させる。ネイティブ・スピーカーの講師との交流を通して、生きた英語を学び、外国語に対する学習意欲を向上させる。</p>	C
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年から英語教育を実施する。 ⇒○</li> <li>・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">経年調査 73.6%</p>	
<p><b>取組内容⑤【基本的な方向5、健やかな体の育成】</b></p> <p>児童の体力・運動能力の向上に向けて、授業や休み時間に児童が運動意欲を高められる活動を実施する。さらに、各学期に、児童の体力向上に向けて体力向上週間（かけ足・なわとびなど）を設定し、がんばりカードを活用することで、目標を持って取り組ませるようにする。</p>	A
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内調査「運動（体を動かす遊びも）やスポーツをすることは好きですか」に最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を40%以上にする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">1月実施アンケート 74%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力的な取り組み後の校内調査の、体力づくりや運動に親しむ項目で、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。ぴょんぴょん 91% ランラン 90%</li> </ul>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	

- ① 話し合う活動を日々取り入れることで、校内調査「自分の考えを深めたり広げたりすることができる」と最も肯定的に答える児童の割合は中間で42%、最終で48%になり目標数値を上回ることができた。また、6学年すべての学年の半数以上の児童が肯定的な回答をしている。しかし、小学校経年調査における結果では、指標に届かなかった。低学年ではペアやグループで話し合う活動を多く取り入れるようにしたり、中学年では様々な話型を示しながら話し合いのスキルを高めたりすることができた。
- ② 算数チャレンジやMIMを中心としたわくわくタイムの実施、放課後学習の取り組みを定期的に行つた。国語科や算数科の学習では、TT体制を活かして、習熟度別少人数授業を取り入れた。経年調査の結果では、学年によって教科の違いはあるが昨年度よりポイントの向上した学年もあり、TT体制や習熟度別少人数授業の効果が一定みられた。
- ③ 様々な学年で理科の実験・観察の記録にICT機器を活用した学習を取り入れて行った。実験の手順や結果・考察を映像や視覚的支援を行うことで授業を工夫しながら進めることができた。理科に関連する生活科でもトマトの観察などでICT機器を活用して学習を進めた。しかし、小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的な回答は64%と指標に届かなかった。
- ④ 継続的な「ドリームタイム（清掃時間後の5分間）」の実施により、児童は、どの学年も英語に親しむことができた。C-NETや3学期には外部講師による英語イノベーション事業もあり、ネイティブ・スピーカーの講師との交流で楽しく学ぶことができた。しかし、小学校学力経年調査における結果では、指標には届かなかった。
- ⑤ 授業や遊びを通して、運動を楽しんでいる。休み時間のみんな遊びの設定や教職員の遊びの参加もあり、児童の運動への意欲が向上した。寒くなる季節も体力向上習慣の設定や、がんばりカードの活用などで進んで取り組む姿も見られた。「運動（体を動かす遊びも）やスポーツをすることは好きですか」の項目では、肯定的な「好き」を回答する児童の割合は74%と大きく上回った。また、ぴょんぴょんタイムやランランタイムのアンケート結果も90%以上の結果で、取り組みの効果が伺えた。

#### 次年度への改善点

- ① 話し合いを通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができると実感する児童が増えてきている。しかし、自分の考えをノートにまとめ、その成果を振り返ることにはまだまだ課題がある。今後も対話から学ぶ時間が確保できるように授業を開発することや自己の振り返りとして考え方を残せるような学習活動や取り組みが必要である。
- ② 今年度は、基礎・基本的な学習の定着に向け、算数チャレンジやMIMを中心としたわくわくタイムの実施に取り組んだ。今後は算数チャレンジやMIMの分析結果を活用しながら、指導や支援の方法を考えていく必要がある。
- また、日々の学習活動の中でTT体制や習熟度別少人数授業の取り入れ方を工夫することが必要である。基礎基本の定着だけでなく、「わかる・できる」→「楽しい」につながる児童の情意面に訴えかけるような授業づくりも課題としてあげられる。
- ④ 外国語に対する学習意欲が向上している。今後は、ドリームタイムだけでなく多文化共生の活動にも外国語を積極的に取り入れるなどして、日常的に触れる機会を増やす。
- ⑤ 体力テストの重点項目は、体幹面より引き続き「反復横跳び」を指標にしながら、学習を進めるようにする。休み時間を活用し、異学年での遊びを通じた交流や教員も一緒に参加して楽しむ時間を設けるなど、子どもたちが体を動かすことを楽しむ時間を確保していく必要がある。また、ランランタイムやぴょんぴょんタイムなどの取り組みで意欲が維持できるような手立てや取り組みをしていくようにする。

(様式 2)

## 大阪市立長橋小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p><b>全市共通目標(小学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内調査における「ICT（プログラミング等）の使用により授業が分かる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。 <b>92%</b></li> <li>ノーアクティビティデイを月 2 日以上設定し実行する。 <b>月 2 回以上実施</b></li> </ul> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校閉学日については、夏季休業期間中は 4 日以上、夏季休業期間以外の休業期間については 1 日以上設定する。 <b>夏季 4 日 冬季 3 日</b></li> <li>校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、70%以上にする。 <b>75%</b></li> <li>校内調査の「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を 85%以上にする。 <b>肯定的 100%</b></li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 6、教育 DX】</p> <p>日々の授業の中で、一人一台学習者用端末とデジタル教材を効果的に活用し、学習効果の向上を図る。また、教員が ICT 等を活用した視覚聴覚支援の工夫について追究する。</p>	
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内調査「授業で ICT 機器を複数の教科で週 1 回以上活用する」の項目について、肯定的に答える教員の割合を 90%以上にする。 <b>91%</b></li> <li>ICT の活用について校内研修会を年 1 回以上行う。 <b>7 月実施</b></li> <li>校内調査「ICT（プログラミング等）の使用により授業が分かる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。 <b>校内調査 92%</b></li> </ul>	<b>B</b>

**取組内容②【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】**

夏季休業中等の学校閉庁日の設定を通して、教職員が健康で生き生きと働くことができるような組織づくりをする。

**指標**

- ・ノーアクションデイを月 2 日以上設定する。 月 2 回以上実施
- ・学校閉庁日については、夏季休業期間中は 4 日以上、夏季休業期間以外の休業期間については 1 日以上設定する。 夏季 4 日 冬季 3 日

**C**

**取組内容③【基本的な方向 8、生涯学習の支援】**

夢ひろば（学校図書館）の読書環境を充実させ、児童が自ら読書に親しむことをめざす。また、地域のボランティアの方や図書館司書の方による読み聞かせを定期的に実施して、児童が本の世界の面白さを感じ、進んで本を読めるようにする。

**指標**

- ・校内調査「読み聞かせが楽しい」と肯定的に答える児童の割合を 85%以上にする。1 月アンケートより 84%  
1 年 96% 2 年 88% 3 年 92% 4 年 84% 5 年 85% 6 年 57%
- ・校内調査「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、70%以上にする。1 月アンケートより 75%
- ・区の図書館との連携により読書活動の環境づくりを推進する。 ○  
西成図書館と連携
- ・学級や夢ひろば（学校図書館）で、読み聞かせを定期的に実施する。  
毎週火曜日読書タイム 第 2 ・ 4 火曜日 夢ひろばよみきかせ

**B**

**取組内容④【基本的な方向 9、家庭・地域と連携・協働した教育の推進】**

学校や地域を拠点とした学習機会の充実、登下校時の見守り活動、読書活動支援、など、地域による学校支援の取組を推進する。また、学校・地域・家庭が連携し、学習会を開催し、学校・地域・保護者の人権意識や教育力を向上させる。

**指標**

- ・地域と連携して、年 10 回以上学習会を実施する。  
部落・人権問題学習会 年 12 回実施 PTA 太鼓演奏会の実施
- ・校内調査「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を 85%以上にする。肯定的 100%

**B**

**年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析**

① 校内調査の結果、「I C T（プログラミング等）の使用により授業が分かる」の項目では肯定的回答が 91%と目標数値を上回った。教職員が授業で I C T 機器を使用する機会も多く、授業づくりの工夫や児童への支援につながっている。児童は一人一台学習者用端末を一つのツールとして意欲的に使用している。デジタルドリルの活用や計算アプリなど多様な活用方法をしている。学級、地域の方のよみきかせや図書館司書教諭による夢ひろばでの本の紹介などにより、「読み聞かせが楽しい」と肯定的な意見へとつながっている。また、「読み聞かせが楽しい」と肯定的に答える児童の割合を 84%ではあるが、半数以上の学年で 85%以上の肯定的な回答を得ている状況もある。

② ノーアクションデイを月 2 回設定することはできた。しかし、会議や部会が急に入ることもあった。部会や会議が重なる時期がある。

- ③ 生活アンケートの結果により、「読書が好き」と答える児童は75%となり、目標数値を上回っている。今年度も、地域ボランティアの方や図書館司書の方による、定期的な夢ひろば（学校図書館）開放があった。休み時間など多くの子どもたちが夢ひろばを利用し本に触れる機会を確保することができた。
- ④ 地域と連携して年12回の学習会を実施することができた。校内調査「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合は100%であった。また、PTA主催で、3校合同太鼓演奏会を実施し、地域や保護者に対して人権についての講演も行うことができた。

#### 次年度への改善点

- ① 授業の内容により一人一台学習者用端末を使用する機会は増えてきている。ICTの研修に関しても関しても授業で活用できる内容の充実も図っていく必要がある。同時に情報モラル教育（とくにLINEの扱い）や受け取った情報を主体的に読みとる能力（メディアリテラシー）についての取り組みも取り入れる。
- ② 今年度から決まった曜日に決まった会議を行い、会議のない曜日を設けるようになつたが、会議が重なる時期もあった。そのため、今後もさらに会議の整理や精選をしていく。
- ③ 今後も継続して、児童が本に触れる時間や環境を整える。特に夢ひろばの開放は子どもたちが読書を楽しむためにとても効果的であった。週一回の図書の時間を確保と「よみきかせ」の児童への周知やさらに意欲がわく取り組みも今後の課題である。
- ④ 家庭・地域の方との連携を深め、学校が大切にしている子どもとの関わり方を理解してもらいながら協力体制を構築し教育活動を推進していく。関係機関と連携を図り、学校ではできない家庭支援を充実させていく必要がある。